



益城の文化財／町文化財保護委員会



川内田の観音堂(川内田)

川内田日向の中
央、町道・袴野線
沿いに観音堂があり
ます。地区の人たち
は「観音さん」と呼ん
でいます。本尊は
「千手観音」が祀られていますが、その由緒・由来
は不明です。現在は古い仏像を中心に、両側に2
体ずつ神像と仏像が祀られている「神仏習合」の堂
宇です。新しい仏像2体(聖観世音・持運観世音)
は、昭和53年に信徒によって寄進されたものです。



安養寺の末院は「由緒記」(『国郡一統志』)によ
ると、川内田の「北福寺」、南の「妙覚寺」、福原
の「松窪熊野稻荷社」と大津町の「西光寺」となっ
ています。川内田の観音堂は、かつて「北福寺」があ
った場所と伝えられていますが、現在はその跡を残
していません。ここでは、修行僧が修行や布教を行
っていたと思われます。

地区の古老の話では、「堂内には雨乞いの大太
鼓が置いてあった。これは一本の大ケヤキを削り抜
いて造ったもので、面径が108cmの太鼓で、南の
妙覚寺にあった面径113cmの太鼓と“兄弟太鼓”と
いわれている(現在は町文化会館で保存)。また、
境内の銀杏の根元には担げ石が置かれているが、
以前は3個あり若者たちが担いでいた」とのことです。

この担げ石は、現在は行われていない農村の習
俗で、「石担げ・力石」に使われたもので、観音堂
や天神社などの境内に2、3個が置かれていました。
1個の重さが百斤(60kg)から二百斤(120kg)とさ
れる円形の石です。石担げはこの石のどれを何歳
で担いだかということで、村の青年社会においての
評価が決まるという一種の成人への通過儀礼です。
この習俗は、かつての巫女による「石占い信仰」の
名残であるといわれています。ここに石担げや力石
の習俗、また雨乞い太鼓が存在していたということは、
この観音堂でもその昔、巫女が祭事を執り行
っていたのではないかと考えられます。

観音堂の祭礼日は、かつては9月1日でしたが、
現在では9月の第1日曜日です。3升3合3勺
の米を炊き、煮た小豆を混ぜた赤飯とお神酒が供
えられ、境内では子ども相撲が行われています。
当番は2戸が1年間受け持って、毎月1日と15
日に清掃をして花が供えられます。

参考文献 『益城町史(通史編)』町史編纂委員会編

わが家の天使



井上 優虹 ちゃん
(宮園)

1歳になりました♪じい、
ばあ、いつも可愛がってくれ
てありがとう♡これから保育
園頑張ります!

パパ 寛之さん ママ 歩海さん



北里 瑠希 ちゃん
(惣領1町内)

動くのが大好きおてんば娘で
す。じいじ&ばあば、いつも
可愛がってくれてありがとう
♡

パパ 敏瑠さん ママ 美希さん

おたより紹介

先日、脳科学者の茂木健一郎氏の話聞く機会があ
りました。氏によると脳の活性化のためにはムチャ
ぶりをするのだそうです。氏はこの間の東京マラソン
を完走したそうです。私は昨年、練習もせずに高校の強歩
会(30km以上)に参加し完歩しました。足の痛みはハン
パではなく、3日間まともに歩けず4か月経った今、足の
指の爪が3本剥がれました。さあて、今年度は何のムチャ
ぶりをしましょうか? P.N 3匹の子ぶたママ

3月7日に行われた木山初市に主人と行ってきまし
た。お目当てにしていた市だごを行列に並んでゲット
しました。おいしかった〜! 2パック買ったのにもっ
と買えばよかったと反省しました。来年も待っています。
花もたくさん買い、わが家の玄関先もとても春らしくなり
ました。 古閑 井上てつ子

春の訪れを感じるようになって、木山の初市もポカ
ポカ陽気に包まれたと思っていたら、3月10日には雪が舞い寒の戻り。冬と春のぶつかりあい。早い春の
訪れが待ち遠しいですね。 田原 尾崎佐千子